

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」
第 1 回（大阪）の開催について

平成 9 年 8 月 2 8 日
科学技術庁原子力局

標記の件につきまして、参考 1 の通り平成 9 年 9 月 19 日（金）に第 1 回を大阪（梅田スカイビル）で開催することとし準備を進めておりますが、詳細について別紙の通りお知らせいたします。

（別紙 1）

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」第 1 回（大阪）の開催について

（別紙 2）

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」の取材を希望される報道関係の皆様へ

（参考 1）

高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する地域での意見交換会

（参考 2）

国民の皆様へー今なぜ高レベル放射性廃棄物処分についての議論が必要なのかー

事務局：

廃棄物政策課 担当：岡谷，川上，前川

電話 03-3581-5271

（内線 673）

FAX 03-3581-1338

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」
第1回(大阪)の開催について

1. 開催日時・会場

- 平成9年9月19日(金) 13:00～16:00
- 梅田スカイビル E会議室(タワーウェスト22階2ndフロア 別添略図参照)

2. 参加者

(1) 地域参加者(11人)

井上	子イ子	生活・情報評論家(女性職能集団WARP代表) [兵庫県]
角田	禮子	関西消費者連合会会長 [大阪府]
加古	美枝	原子力モニター(主婦) [兵庫県]
金氏	顯	三菱重工業株式会社神戸造船所副所長 [兵庫県]
神田	啓治	京都大学原子炉実験所教授 [大阪府]
小松	左京	作家 [大阪府]
末田	一秀	日本消費者連盟関西グループ [大阪府]
広本	悦子	「放射能のゴミはいらない! 県条例を求める会」 [岡山県]
前田	肇	関西電力株式会社専務取締役 [奈良県]
山下	宏文	京都教育大学教育学部助教授 [京都府]
吉村	清	「高速増殖炉など建設に反対する敦賀市民の会」代表委員 [福井県]

(2) 原子力委員会関係

① 原子力委員会

伊原	義徳	原子力委員会委員長代理
藤家	洋一	原子力委員

② 高レベル放射性廃棄物処分懇談会構成員

石橋	忠雄	弁護士
◎木元	教子	評論家
近藤	次郎	元日本学術会議会長(高レベル放射性廃棄物処分懇談会座長)
下邨	昭三	高レベル事業推進準備会会長
松田	美夜子	生活環境評論家(廃棄物とリサイクル)

③ 原子力バックエンド対策専門部会構成員

鈴木	篤之	東京大学大学院工学系研究科教授
徳山	明	常葉学園富士短期大学学長

以上合計20名
◎は議事進行役
(敬称略, 五十音順)

3. 議事進行案

議 事	時間〔目安〕	備 考
(1) 開 会	13:00-13:05 (5分)	
(2) 高レベル放射性廃棄物処分の 取組みについての概況説明	13:05-13:25 (20分)	
(3) 地域参加者による意見陳述	13:25-14:25 (60分)	11名(各5分程度)
<休 憩>	14:25-14:35 (10分)	
(4) 参加者による意見交換	14:35-15:35 (60分)	
(5) 一般傍聴者からの意見聴取	15:35-15:55 (20分)	数 名
(6) 閉 会	15:55-16:00 (5分)	

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」
第1回(大阪)における地域参加者について

いのうえ 井上	ちいこ チイ子	生活・情報評論家 (女性職能集団WARP代表)	[兵庫県, 56歳, 女性]
かくた 角田	ひろこ 禮子	関西消費者連合会会長	[大阪府, 58歳, 女性]
かこ 加古	みえ 美枝	原子力モニター(主婦)	[兵庫県, 27歳, 女性]
かねうじ 金氏	あきら 顕	三菱重工業株式会社神戸造船所副所長	[兵庫県, 53歳, 男性]
かんだ 神田	けいじ 啓治	京都大学原子炉実験所教授	[大阪府, 59歳, 男性]
こまつ 小松	さきょう 左京	作家	[大阪府, 66歳, 男性]
すえだ 末田	かずひで 一秀	日本消費者連盟関西グループ	[大阪府, 40歳, 男性]
ひろもと 広本	えつこ 悦子	「放射能のゴミはいらない！ 県条例を求める会」	[岡山県, 50歳, 女性]
まえだ 前田	はじむ 肇	関西電力株式会社専務取締役	[奈良県, 61歳, 男性]
やました 山下	ひろぶみ 宏文	京都教育大学教育学部助教授	[京都府, 40歳, 男性]
よしむら 吉村	きよし 清	「高速増殖炉など建設に反対する 敦賀市民の会」代表委員	[福井県, 72歳, 男性]

以上合計11名
(敬称略, 五十音順)

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」第1回(大阪)
— 開催会場 —

〒531

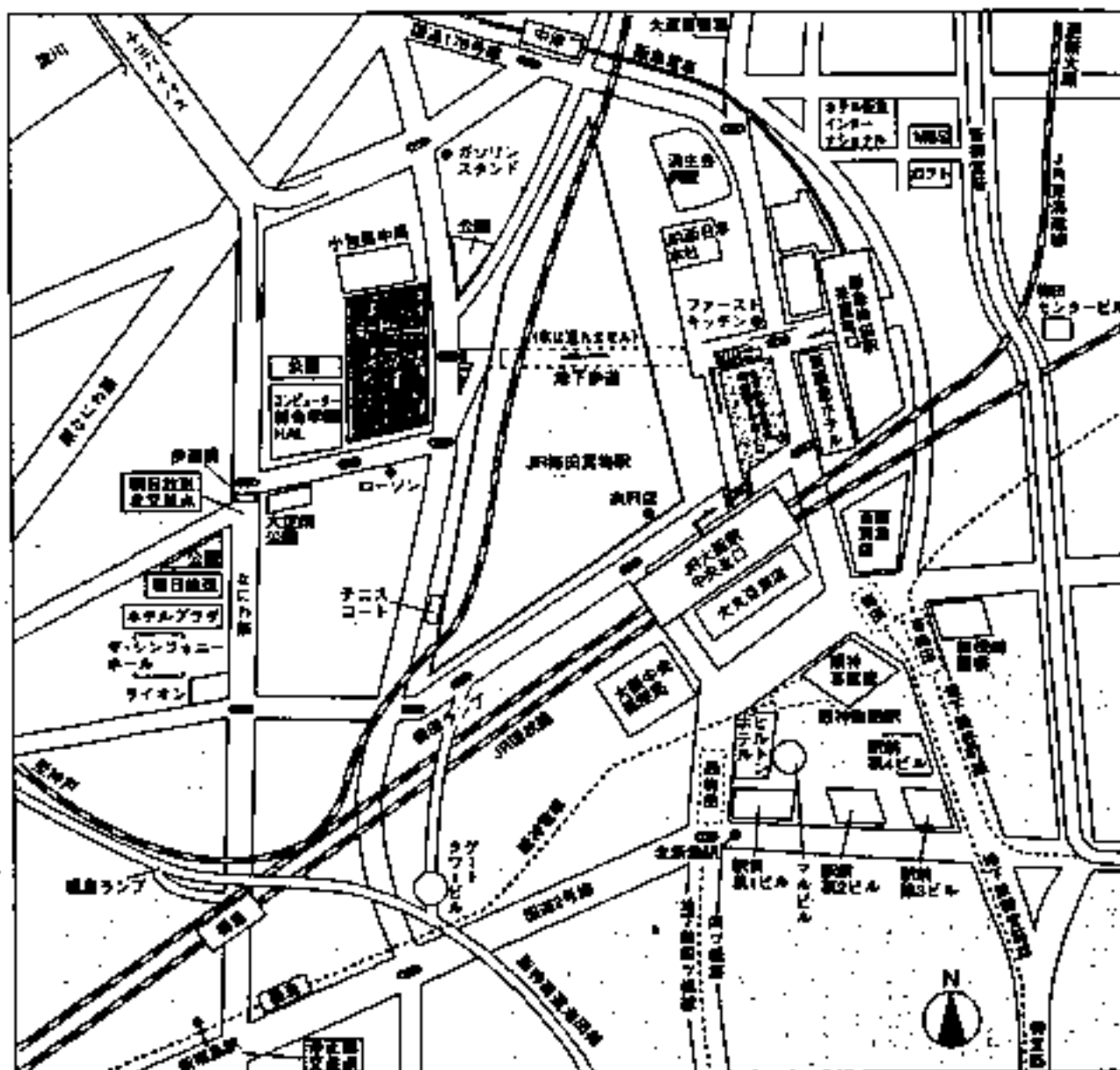
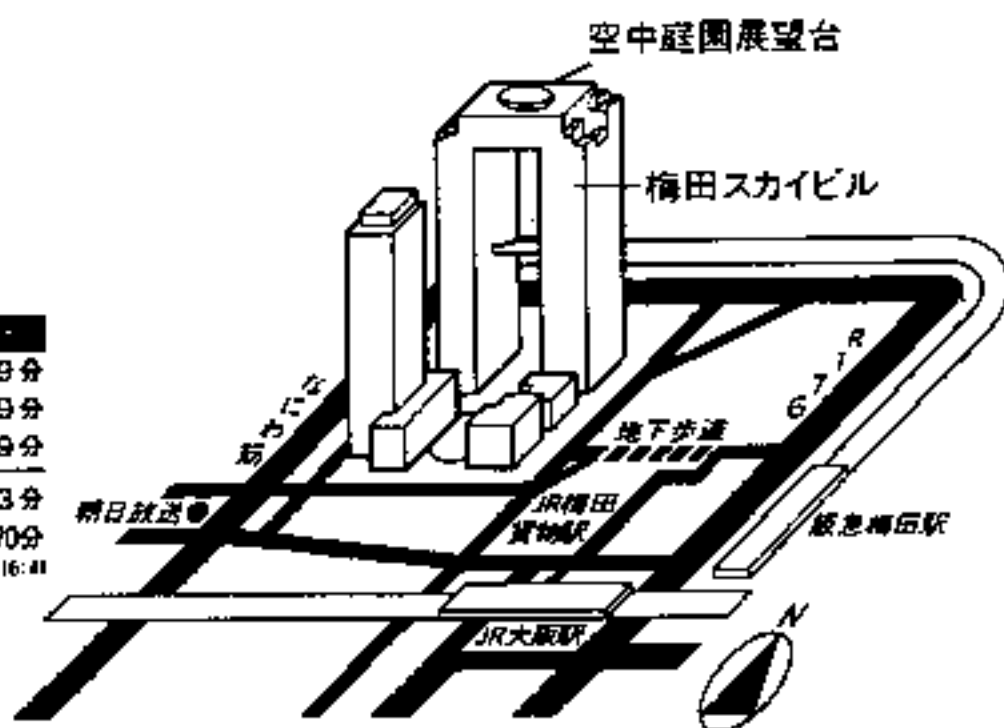
大阪市北区大淀中1-1-88-2300

新梅田シティ内

梅田スカイビル E会議室

(タワーウェスト22階2ndフロア)

JR大阪駅から.....徒歩約9分
阪急梅田駅から.....徒歩約9分
地下鉄御堂筋線梅田駅から.....徒歩約9分
お車で.....阪神高速道路、梅田出口から約3分
関西国際空港より(エアポートリムジンバスにて).....約70分
※新梅田シティ(本館側)第一館西側空港行(有料) 06:21、07:21、08:21、09:21、16:41



「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」
の取材を希望される報道関係の皆様へ

平成9年8月
科学技術庁原子力局

1. 取材を希望される報道関係の皆様のご傍聴につきましては、原則各社1名とし、開催3日前(9月16日(火))までに事務局に事前登録して下さい。登録の際は、貴社名、傍聴者名、カメラ(VTRあるいはスチルカメラ)の持ち込みの有無(カメラ等の担当者が入場される場合には、入場人数)を、電話あるいは別添の様式で、以下あてにFAXにてご連絡下さい。

事務局： 科学技術庁原子力局廃棄物政策課(担当：岡谷，川上，前川)
電話番号 03-3581-5271
FAX番号 03-3581-1338

2. 当日は、ご本人であることを確認できるもの(社員証、運転免許証等)を会場の報道関係者受付にてご提示のうえ、開会1時間前から30分前までの間に受付を済ませて入場して下さい。
3. 入場の際に受付にて安全ピンの付いたリボンをお渡ししますので、会議が行われている間はそれを上着の左胸等確認しやすい位置に付けておいて下さい。カメラ、照明等を担当される方は、腕章等により身元を確認できるようにして下さい。
4. 傍聴される方は、お渡しするリボンと同色の紙を貼った席をご用意しておりますのでそちらに着席して下さい。着席は開会10分前までにお願いします。
5. カメラによる取材のために、カメラスペースを用意いたします。カメラによる取材は、議事の妨げにならないよう、事務局の指示に従い、設定されたカメラスペース内でお願いいたします。
6. 当日は、会場内での会議参加者(地域参加者、原子力委員、処分懇談会・専門部会構成員)への取材はご遠慮願います。
7. 会場内では事務局の指示に従って下さい。
8. 退場する際は、お渡ししたリボンを受付で返却して下さい。

「高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する意見交換会」第1回(大阪)

－ 報道関係取材申し込み票 －

○貴社名： _____

○所 属： _____

○ご芳名： _____

○連絡先：(勤務先住所) _____

(電話番号) _____ (FAX番号) _____

○カメラ取材の有無： 有 [カメラ(VTR ・ スチル)] ・ 無
(いずれかに○をご記入下さい。)

○上記以外の入場者のご芳名： _____

○返送先： 科学技術庁原子力局廃棄物政策課(担当：岡谷，川上，前川)

〒100 東京都千代田区霞ヶ関2-2-1

TEL 03-3581-5271 / FAX 03-3581-1338

高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関する 地域での意見交換会の開催について

平成9年8月5日

1. 趣 旨

原子力委員会は、平成7年9月に、高レベル放射性廃棄物処分に向けた取組みを強化していくことを決定し、高レベル放射性廃棄物処分懇談会および原子力バックエンド対策専門部会を設置しました。その後、両会は鋭意審議を進め、専門部会は本年4月に報告書「高レベル放射性廃棄物の地層処分研究開発等の今後の進め方について」をとりまとめました。それを踏まえて、現在関係機関において研究開発が進められているところです。また、処分懇談会は、この度報告書案「高レベル放射性廃棄物処分に向けての基本的考え方について（案）」をとりまとめ、国民の皆様から意見を求めることとしました。

このような状況の中で、高レベル放射性廃棄物処分への今後の取組みに関して、地域の方々、原子力委員、両会の構成員等の参加を得て、地域において各方面から意見を聴取・交換する場を設けることとしました。

2. 開催要領

(1) 開催日時・開催地

①第1回 平成9年9月19日(金) 13:00～16:00(大阪市)

[開催会場：梅田スカイビル(大阪市北区)]

②第2回 平成9年10月30日(木) 13:00～16:00(札幌市)

③第3回 平成9年11月12日(水) 13:00～16:00(仙台市)

④第4回 平成9年12月11日(木) 13:00～16:00(名古屋市)

⑤第5回 平成10年1月14日(水) 13:00～16:00(福岡市)

(注) 第2回以降の開催会場は未定です。確定次第お知らせします。

(2) 参加予定者

地域参加者10人程度、原子力委員、
高レベル放射性廃棄物処分懇談会および
原子力バックエンド対策専門部会構成員 など

(3) 議事進行等

概況説明、
地域参加者による意見陳述、参加者による意見交換
全体を3時間程度とし、公開の下で開催

(4) 開催事務局

原子力委員会事務局(科学技術庁原子力局廃棄物政策課)

3. 一般傍聴者の募集について

標記意見交換会につきまして一般傍聴者を募集いたします。

傍聴を希望される方は、往復はがきに、郵便番号、住所、氏名（氏名にはふりがなを付けて下さい）、年齢、性別、職業、電話番号、傍聴希望開催地を明記の上、下記あてにお送り下さい。お手数ですが、返信はがきの表にはご自身のあて先を記入しておいて下さい。

○あて先 〒100 千代田区霞ヶ関2-2-1
科学技術庁原子力局廃棄物政策課
「意見交換会 一般傍聴希望受付係」

応募は、1 開催地につきお一人様一通とさせていただきます。

締め切りは、それぞれ開催日の2週間前（必着）といたします。

なお、各会場とも100名程度の一般傍聴席を用意する予定ですが、希望者多数の場合は抽選とさせていただきます。応募者への結果の通知は返信はがき（傍聴者の方には傍聴券となります）の発送をもってかえさせていただきますので、電話等による結果の確認はご遠慮下さい。

～今なぜ高レベル放射性廃棄物処分についての議論が必要なのか～

日本では34年前に初めて茨城県東海村で原子力を利用して発電した。現在では電力の34%を原子力に頼っているが、高レベル放射性廃棄物の処分問題は最初から考えておかねばならない問題であった。これをリスク管理の問題ととらえれば、冷静に理解して対策を立て、余裕のある間に国民の合意が求められる問題である。このため、なるべく多くの人たちが将来予見されることについて今から心の準備や科学的な考察をしておく必要がある。また、国民の理解を得るためには、問題を先延ばししておいて急に解決に向かおうとするのは正しい方法ではない。このような大事なことがらは十分に時間をかけて議論をしておく必要がある。そのためにはある程度の科学的知識などを広く国民が理解し、処分問題についての議論に積極的に参加することが必要である。その場合に国民一人一人が一から始めて勉強することを強制することはできない。ここにのべた報告書案はこのような議論のたたき台として利用するために作成したものである。

高レベル放射性廃棄物処分懇談会（懇談会）の構成員は国民の各層から多彩な人たちが選ばれている。原子力の利用についてはいろいろな意見を持つ人たちが集められた。この報告書案の作成までには合計11回の懇談会に18回の特別会合を開催した。この報告書案はこのような法律、経済、倫理、生活、マスメディア、原子力などの専門家による幅広い観点からの意見の集約、勉強の所産である。そして、この懇談会で合意を得たことは、とにかく我々の世代で現にある廃棄物の処分の方策を立てるべきであって、決定を次の世代に委ねるのは良くないということである。

原子力は、火力発電のように石炭や石油を燃した熱で蒸気をつくるのとは根本的に違っている。それは核物質のウラン235 にいつでも反応を停められるような制御された状態で中性子を原子核にあて、次々に反応（連鎖反応）させて核分裂を行わせるものである。この核分裂の際に出てくる高速中性子の運動エネルギーを熱エネルギーに変えると高熱が大量に発生する。その後は石油による発電と同じで水蒸気で発電機を回転させて発電するのである。

しかし、それと同時に原子炉の燃料の燃えカス（核燃料廃棄物）の処理の問題が出てくる。原子炉の中の反応は複雑で、核分裂によっていろいろな種類の物質が生成される。それらの放射性特性もいろいろであり、それぞれの半減期もさまざまである。多くは数百年の単位で強さが100分の1程度になる。放射能が元の半分の強さになるまでに（半減期）2万年以上かかるものもある。高レベルの廃棄物は現在ガラス固化体に換算して1万本を超えるほどに溜まっている。核燃料廃棄物を協定によりフランスあるいはイギリスに送って処理してもらい、ガラス固化体にして日本にもどし青森県六ヶ所村に貯蔵しているが、この最終的な処分を考えておく必要がある。

原子炉から出る放射能の弱い低レベルの廃棄物は、地下に埋めて数百年程度埋設しておけば自然のレベルにもどる。一方高レベルの廃棄物は高温に溶融したガラスと混ぜて動きまわらないようにガラス固化体としてこれを冷やしたうえで、地下数百メートルから千メートルの安定した岩盤の中に数千年以上埋設するのである。ウランの原石は元々放射性を持つ天然物であるが、地層処分はこれを地層の中に封じ込めて永久に保管してウランの原石のレベルにもどすという一番自然な処分である。



これに対して他の方法としては、ロケットなどにより地球圏外に打ちだす、代価を取って進んで引き受ける国へ移す、少し様子を見て新技術で将来きっと科学的にうまい処理法が見つかるはずであるからそれまで待つ、という差し当たって3つの方法が考えられる。

ロケットで打ちだす方法はどうか。これは有害な廃棄物を搭載して、宇宙の果てに飛ばしてしまおうとする計画で、うまく行けばどこの国にも迷惑をかけない案である。巨大ロケットが必要であるが、この費用は今まで恩恵を受けた現代人が支払えばよい。しかし打ち上げに失敗した場合のリスクは否めない。よってこの方法は採用できない。

もし、迷惑な廃棄物を他の国に引き渡すとすれば、日本の対外姿勢が大きく弄断される問題になる。

また、様子を見て問題を先に延ばすほど解決が困難になる。追いつめられて最終的に期限を決め、短期間に問題を解決しようとするれば、国民の理解を得ることは難しいだろう。

結局、日本領土の地下に埋設するより他に方法がない。懇談会では日本の国内のどこかへ施設を作って処分しなければならないとすると、それをいつ、どこで、だれが、どのようにしてやるのかということを経験することにした。このようなことを議論するために廃棄物処分の方法や諸外国の事例などの調査を実施した。

高レベル廃棄物の処分問題は実際に視察したカナダ、アメリカ、スウェーデン、スイス、フランスなどに較べて10-20年程度遅れている。しかしこのような先進諸国の知識と経験を利用すれば、現在得られている知識で何が適当であるかということを見断することはそれほど難しくはないであろう。

21世紀に向かってアジア諸国では経済成長が見込まれている。これらの諸国では必然的にエネルギーの需要が拡大するから、原子力に頼ることが大きいと思う。そのような場合に原子炉を建設し、それを安全に運用すれば当面のエネルギー問題は解決できる。しかしそれと同時に核廃棄物の処分の問題が出てくる。アジアで一番早く原子力の平和利用をした実績のある我が国としては、できるだけ有効な方法を見出し、廃棄物処分までを含んで日本の技術がこれらの国に利用されるように願うものである。

私は環境アセスメントや地球環境問題にもたずさわってきた。産業革命以来の石炭や石油の大量消費が今地球環境を危機的なものにしている。追いつめられたうえでの対策には限りがある。資源エネルギーの消費から廃棄物にいたるまで、われわれの世代に課せられた責任は重いものがある。



この報告書案の公開にあたり国民の各層の方々からたくさんのご意見が寄せられることを心から願っている。

平成9年8月

近藤 次郎